



18

新編 北条

^ 5  
6534







ちのこゝろが空しく候へば  
 旭流より松葉を吹く  
 高志はあまのこころに  
 有途ふもやうに  
 必らず橋をたどる  
 世も古も新も  
 都もあはれ  
 有るは  
 此の  
 明書









神戶より往くまうしくと  
流のまうんこ一東を回して

空海や秋の節日水 松葉

日のひまも又 松葉して 月の宿 井ノ 志

名月や海しき 海島 松葉

そみのゆる月や 松葉の山いづ川 子高

明月やまをこも 海島 海月

住吉のまう店ま 松葉

亀の脊を 松葉まうしと 松葉



とまう

松葉 月おとしく 彼居日如 松葉

月之危なる 松葉 松葉

とともかき 郵しき 雨の月 水 松葉

松葉

松葉 松葉 松葉

下松葉

あまうまや 松葉を 涼香



丹那なるふとくを—— 濱 お 福 ま

石の附り

・ 湖田のきつめしれくく 交中丹 松 翠

田 庄

くりくたふはたふ国とて小田のテ

川あしとふか山色—— 岩の丹 雲花女

ありのくろ名残うらうら—— 丹のふ はしめ

とゆりくはせふらうふ丹の若 新 夏

露原やうふふ—— 之 初丹 秋 羊 山

たの丹ハ此ニむらうて 梅の暗 禾 碓

舟さすや小里ゆうせん 梅のう 杜 敷

名丹や小庵も影のりそら 瓜 田

波あききとくふニ 此やふふの丹 芥 尾

入くくろ人や宵めく丹の若 英 奇

雲をけと 澄くさう 終の丹 比 原



さげと又ゆふを淋しや秋海棠  
一雨 色一 月 竹の庭  
杖 更よ 髪 さらけの 時  
か さらけ 後 七 百 姓 あり  
室 小 鹿 あらふ 海 幸 洲 了  
くふと し 小 春 色 あり  
原 翠 原 原 原 原

あつしぬ 蒲 花 を うら け 海 泊  
つ づ づ の 遠 望 とう 心 寸  
お や や の 用 を 心 寸 海 泊  
え け ぬ 心 も あり 舟 帆 夷 浪  
さ ー あ ー 心 世 かり 妹 あり  
い ー り ー 妻 あり 海 幸 洲 了  
登 小 春 色 あり 海 幸 洲 了  
原 拂 とう 心 世 船 を 潜 け  
原 翠 原 原 原 原 原 原



大盤、仁平治との事  
いしきやいしき同海くさくさ  
夕舟、ゆき人志の昔吹く  
谷つりきる ちんくすの  
養生中、救入とさう 七 踏さう  
若貴の勅伝とさう 雨 金子  
おのまひるといつて ちんくさ  
五人、ちんくさ 張とさう ちんく

原 原 原 原 原 原 原

つとつと治衣着る日、ちんく  
ちんく、ちんく、ぬ ちんく ちんく  
お住の鏡、ちんく、ちんく  
ちんく、ちんく、ちんく、ちんく  
ちんく、ちんく、ちんく、ちんく  
ちんく、ちんく、ちんく、ちんく  
ちんく、ちんく、ちんく、ちんく  
ちんく、ちんく、ちんく、ちんく

原 原 原 原 原 原 原







おきもといふ梅もも 咲か  
は 戸 異 々 々 中 へ 徳 亦 の 智  
おもしろくも 清 々 々 々 々 々 々 々  
今 一 きりしと ち ち ち ち ち ち ち  
ま っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
と っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
大 持 の 沙 汰 七 一 っ っ っ っ っ っ っ  
終 々 麻 綿 衣 一 着 中 の 良 室  
夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏

洞 壺 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
入 付 部 一 々 々 伊 勢 水 神 居  
ひ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
植 生 け っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
能 ま っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
毛 抜 ま っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
あ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
炬 火 を っ っ っ 湖 の 魚  
夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏



ぬれ着こもむら友らるる花のま  
死ぬるまゝささぬ お徳  
筆毫を才くの鼠のほめてふ  
茶の挽買も勝てふまゝ  
涙の室あがりてまゝ光り  
種児もささぬの肩おろし  
うけ月れ新をまゝのま  
糸のぬあま水や水の雲壳  
夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏

陣をこえて右足もあはし  
二階位にぬき戸襦  
しと浦うらおとの物をま  
鎌おしゆつき古刀をい  
と古刀幹もたぬま  
若よもむら 庭にお  
夏 夏 夏 夏 夏 夏 夏



五十員

字分れを指してきぬふ

はしめ

破もる作よきひる古の言

松翠

なゆ紫の折口しうる高き

南翠

岩さへもゆるり舟のさ

翠

くくくしと弁當売をく

南翠

をわり別物くくくく

翠

冬もくくはく候れぬ

南翠

ちくくむくく押上て

翠

いや雁ハ辛小坂新より

南翠

空のきくくく

翠

人ぬぬぬぬぬぬ

南翠

目鏡くくくく

翠

をくくくくく

南翠

くくくくく

翠



衣櫛のうらまをくく衣をばしやう

まのこやうめ 春 金 也

名月をくくくくく 向 高

きくくくく 宿の香を 振る 吟

明実れと際よ 露をきくくく

おしをきききき 桶背をばく

おしをばく 志のソウ とうくくく

餅と 糖 下 ところ 秋 三

と

甫

翠

甫

翠

甫

翠

甫

翠

傾字寺ハのうらまをばく

先 一 一 一 一 一 一 一 一 一

まのうらまをばく

而も 雨 初 一 一 一 一 一 一

折の 一 一 一 一 一 一 一 一 一

かつを 一 一 一 一 一 一 一 一 一

おもしろや 子の 危れ 一 一 一 一

伝 よ あり 一 一 一 一 一 一 一 一

と

甫

翠

甫

翠

甫

翠

甫



背ちれ小首くけく物行ふ

ううわくちくくくくくくく

中ハ雅波心世の店か下子

宿く知てししまふわくくく

松ハ木の位くくくく秋の月

つゆ引くときくくくくやうくく

石盤を叩くくくくくくく

くくくくくくくくくくく

翠

南

翠

南

翠

南

翠

南

指比きく雲をのせぬくくく

かきく河の可きまきま

つくくくくくくくくくく

河ハ懈の目と沸くくくく

豆るれきくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

寂海の岸くくくくくく

破くくくくくくくく

翠

南

翠

南

翠

南

翠

南



魚尾

雛算七定家帝七忘の先

答よとくたの音をまつふ

きもむし海のまもりぬ橋・網

かやうさやけし神門ふく

南 翠 南 翠

平印氏存板



魚尾



